

現在の台北を描いたのは、エドワード・ヤン以来だ。——ホウ・シャオシェン



どこまでも孤独、
どこまでももろく、
どこまでも強く。

台北映画祭
最優秀脚本賞
含む4部門受賞

金馬獎
最優秀新人賞
リマ・ジタン

第18回(2017年)
東京フィルメックス
コンペティション部門上映作品

台北暮色

johnny

監督:

ホアン・シー

製作総指揮:

ホウ・シャオシェン

出演:

リマ・ジタン クー・ユールン ホアン・ユエン

apeople.world/taipeiboshoku/



© 3H Productions Ltd

A PEOPLE CINEMA

ホウ・シャオシェン × エドワード・ヤン
ふたりを継ぐ〈台湾NEXT BLOOD〉
女性監督 黄熙ホアン・シー 美しい第1作

反射する暮色の街〈台北〉に、いま、生きている。女と、男と、少年——。



INTRODUCTION

ホウ・シャオシェンは言った。「台北の現在の姿を描けたのは、『台北ストーリー』のエドワード・ヤン以来だ」と。ホウ・シャオシェンの現場で映画を学んできた女性監督、ホアン・シーのデビュー作品。その映画遺伝子は、今回製作総指揮を務めたホウ・シャオシェン譲り。その一方で、「カップルズ」のクー・ユールンが主演のひとりを務めるなど、エドワード・ヤンとの繋がりも見える。我々はそこにホウ・シャオシェンの映像を見るが、ホウは「その資質は自分ではなく、ヤンに近い」と発言している。ホウ・シャオシェン × エドワード・ヤン。1980年代からの台湾映画を支えたふたりの遺伝子を継いだ、〈台湾NEXT BLOOD〉が生まれ出た。引き付けられる、目が離せないカットの数々。台北の街、路地、鉄道、道路、そこに降る雨、そこにある水たまり、その美しさ。そこに生きる人、家族、その強さ。もろくも孤独な魂たちが、美しく、強く結ばれるとき。

STORY

車で生活する中年の男。人と混じり合えない少年。「ジョニーはそこにいますか?」という間違いの電話を何度も受ける独り暮らしの女。そんな3人が孤独の中、出逢い、また、新しい未来が見えてきたとき、彼女の思いがけない過去が明らかになっていく——。台北の〈暮色〉。物語のクライマックス、そこに、何を見るのか——。

11月24日(土)より公開決定!

渋谷・文化村交差点左折

ユーロスペース
EUROSPACE

tel: 03-3461-0211 www.eurospace.co.jp